

美術科学習指導案

日時 平成21年 9月18日(金) 5校時

13:10-13:55

場所 中野区立第二中学校 美術室

学級 第1学年B組 教諭 猪口 正和

1、題材名「グラデーションの平面構成」A表現(1)・ア (2)・ア (3)・イ

1年でA表現(1)、(2)、(3)をバランスよく取り組む年間指導計画になっていればよい。

2、題材の目標 ②と③はうまく整理して一文に出来ないか?

①形や色彩の組み合わせの面白さ、色彩の変化の美しさなどを感じ取り、作品から価値や心情を見出す。(1)・ア

②造形感覚とデザインの能力を養い、造形的に美しく構成する能力を高める。(2)・ア

③用具の特性を理解し、制作の順序などを考えながら、見通しをもって表現する。(3)・イ

コメント [T1]: 題材の目標は授業者が題材から一番生徒の身に付けさせたい事項を書く。③を具体的に書くと②のように思う。私もこれから勉強しなければならないのだが、A表現(1)やA表現(2)がきちんとできる裏付けとしてA表現(3)一技能があるように思うがいかがですか。

3、題材設定の理由 第一案で問いかけた「コメント[T4]」年間指導計画の中での位置づけ

5~6月は、ドリップングやマーブリング、フロッタージュ等のモダンテクニックで、細部に拘束されることなく色彩と戯れさせ、その中から形や模様を発見し、「不思議な生物」というテーマのもと、コラージュ作品を制作した。小学校からの流れもあってかそれらの作品は時に大胆で勢いのある表情を見せ、様々な技法を通じて色彩と接することによる、創ることへの前向きな姿勢を感じさせた。これが右記の「コメント[T2]」のないように思えるが、まだ弱い

今回は偶発的なパワーやある種の瞬発力を必要とする前回の題材から少しベクトルを変えて、色彩を意図的に用いるグラデーションの平面構成に取り組む。数ある平面構成の中でも、グラデーションは仕上がったときの美しさを実感しやすいと考えるからだ。自分が美しいと感じる色の組み合わせは何か、それを生かす形はどういったものか、美しく変化させるためにはどのように混色したらよいか、試行錯誤させ、色彩の魅力を感じさせたい。

また、例えば空や海の青さを美しいと感じるその背景には、色調がだんだん明るくなったり、深くなっていったりする=グラデーションというある秩序があることを知り、身の回りの自然にある美を発見する契機にしたい。

これまでの指導経験のなかで「途中まではうまくできるのだけど、色を塗ると失敗する…」という声をよく耳にした。完成の達成感・成就感をより深く味合わせたいと考えるので、1学年の段階で絵の具の美しい用方を身につけ、用具を表現に応じて意図的に用いることができる下地を作りたいという思いもある。

コメント [T2]: について、この題材設定の理由に盛り込むことなぜ今、本題材に取り組む必要があるのか、そしてどんな題材に発展させるのか?をこの部の中に盛り込むこと

この文は授業者の意図は書いてあるが生徒の発達段階に応じた必然が弱い

4、生徒観 (生徒の実態)

自分のことは自分でやる習慣が身につけており、自分の作品世界に集中する気風がクラス全体にある。絵がとても上手く、美術の時間が自己肯定の場になっている生徒もいる。

「美術への関心・意欲・態度」: もの作ることに對して前向きな生徒が多い。

その反面、深める直前で終わりにしてしまう場面もある。

「構想・発想の能力」: 「こうしたい」という欲求がきちんとあり、形にしていくことを厭わない。

「創造的な技能」: 偶発的な面白さを生み出すことも多いが、意図と目的をもって表現できる生徒はまだ少ない。

「鑑賞の能力」

: 他者の作品の良さや意図を感じる力を**持っている**。

もって

5、指導観

- ・ものの美しさや良さの根底にある「美の秩序」を、実際の制作を通して感じさせる。
「美の秩序」とは美しいと感じるものに内在する形や色の組み立てのことである。グラデーションの他にも、シンメトリー、リピテーション、アクセントなどの美の秩序が知られている。今回、グラデーションの平面構成を通して、色彩が段階的に変化することにより生じる美しさを感じさせる。
- ・長短双方あるが、滲みにくく、乾くと耐水性になるアクリル絵の具を使うことにより、制作の進行をスムーズにする。失敗しても修正がたやすい。
- ・混色の過程を通して、混ぜる色の比率、塗る面に対して使用する絵の具の分量など、絵の具の扱いを体得させていく。
- ・ものの美しさや良さの根底にある「美の秩序」を、実際の制作を通して感じさせる。

6、評価規準

評価の観点	ア 美術への関心・意欲・態度	イ 構想・発想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
題材の評価規準	主体的に美術の活動に取り組み、創造する喜びを味わうことができる。	豊かに発想し、構想する能力を伸ばす。	用具を、表現意図をふまえて、美しく正しく用いる。	作品の良さや美しさ、価値を感じる。
学習における具体的な評価規準(本時)	最後まで丁寧に美しく仕上げる。	①形や色彩の配色を工夫し、美しく構成する。 ②グラデーションが美しい変化をみせるように、色彩の変化を感じる	①アクリル絵の具や面相筆の特性を理解し、美しく着色する。 ②グラデーションが美しい変化をみせるように、混色する。	本時は行わない。 了解 本時で該当しない観点が出ることもある。

コメント [T3]: 前回の指摘に答えていない。「グラデーションの平面構成」という具体的な題材に応じた評価規準にすべし。
この内容ならどの題材にでも使える。

7、材料・用具 **了解**

授業者：生徒個々に配布するもの：平面構成シート、ワークシート、台紙参考作品、アクリル
共用：水バケツ、新聞紙、ペーパーパレット、定規

授業者：両面テープ、絵の具セット、

生徒：筆記用具、色鉛筆、アクリル絵の具セット、ペーパーパレット

8、学習指導計画（全12回）

		学習活動	学習内容	評価
発想・構想	第1時	・「美の秩序」について説明を聞く。 ・上級生の参考作品を観る。 ・アイデアスケッチ	・「美」には規則や法則があることを知る。 ・課題を身近に感じ、モチベーションを高める。 ・形と色彩を組み立てる。	関 発
	第2時	・アイデアスケッチ（続き）	・形と色彩を組み立てる。	
	第3時	・平面構成シートに枠線を引く ・枠線内にデザインを写す	・定規を正確に美しく用いる。	
	第4時	・枠線内にデザインを写す	・定規を正確に美しく用いる。	
展開	第5時（本時） ～ 第10時	・教師の実演を観る 授業者 ・道具の配置 ・絵の具の混ぜ方 ・筆の使い方 ・水分の調整 ・デザインを着彩する	・用具の扱い方を視覚的に理解する。 *ワークシートはない *板書・実演の内容 了解 ①道具の配置 ②ペーパーパレットの使い方 ③混色のこつ ④白を混ぜるこつ ⑤筆の使い方 ⑥水分の調整の仕方 ⑦色を塗る順番 ⑧修正の仕方 ・アクリル絵の具の美しい使い方を身に付ける。	関 創 発
	仕上げ	第11時	・作品を台紙に貼る。	・装幀することを通して作品をより美しく見せる。
鑑賞	第12時	・自分、級友の作品を鑑賞する。	・色彩や形、色調の変化等から根拠をもって、自分や級友の作品の良さや美しさ、価値を感じる。	関 鑑

コメント [T4]: 具体的な評価規準の記号を書く
例 イー①
同時に「～具体的な評価規準」＝Bに届かない生徒が出てくること予測できる。予め生徒の状況をふまえ、こういった場面でつまづくのではないかを予測して「規準を達成出来ない生徒への支援」略して『支援』とでも表示して具体的な支援を評価の欄に書く。
授業者の支援で規準を達成できた生徒はBであるが、どうやっても達成できない生徒はCとなる。

コメント [T5]: これは前回のコメントの答えと思うが、敢えて描かなくてよい。

コメント [T6]: 10、授業観察の視点の前に「板書計画」として表示すること
板書は生徒が授業者の指導の後、生徒がそれを頼りに自分で判断して制作できる内容にすること
ワークシートがないことは了解

9、本時

(1) 本時のねらい

- ・最後まで丁寧に美しく仕上げようとする。(関心・意欲・態度)
- ・形や色彩の配色を工夫し、美しく構成する。(発想と構想の能力)
- ・グラデーションが美しい変化をみせるように、色彩の変化を感じる。(発想と構想の能力)
- ・アクリル絵の具や面相筆の特性を理解し、美しく着彩する。(創造的な技能)
- ・グラデーションが美しい変化をみせるように、混色する。(創造的な技能)

評価の観点に照らして『ねらい』を設定する必要はない。

本時で一番生徒の身に付けさせようと考えていることを書けばよい。ねらいは目標であり、目標がたくさんあると授業の焦点が定まらない。授業者としては「あれもこれも」と思いがちだが総花でなく、目標(ねらい)から広げているような要素を指導すればよい。

(2) 本時の展開

時間	学習活動	学習内容	評価
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいを把握する。 ・着彩についての授業者の実演を見る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①道具の配置 ②ペーパーパレットの使い方 ③混色のこつ ④白を混ぜるこつ ⑤筆の使い方 ⑥水分の調整の仕方 ⑦色を塗る順番 ⑧修正の仕方 	
	展開 了解	視覚を通して理解する。	
展開 30分	<ul style="list-style-type: none"> ・グラデーションになるように着彩する。 <予想される生徒の反応とその対応> ①水気が多すぎる →バケツの端、雑巾、新聞紙等で調整 ②彩度が高い色(黄色等)がなかなか明るくならない。 →「白と黄色を別々に出し」「白に」「黄色を」「ちょっとずつ」混ぜさせる。 ③筆先が整わない。 →パレットの空いている部分や新聞紙に筆を回しながら線を引かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・色の明るさの変化を感じながら、白の量を調整する。 ・ムラなく塗れるように、水分量を調整する。 	関・意・態 発想・構想 技能
まとめ	・片付ける。		

10、授業観察の視点 了解

- ・指導技術（授業展開） : 導入時の説明内容や時間配分は適切であったか。
- ・「指導と評価の計画」の作成・改善 : 評価の観点と実際の指導は一体となっていたか。
- ・教材解釈・教材開発 : 参考作品・資料等の提示法、内容は適切であったか。
- ・統率力 : 授業の流れに沿っていない生徒はいなかったか。
- ・使命感・熱意・感性 : どの生徒に対しても「良いものを作るんだ！」という気概をもって指導しているか。
- ・生徒理解 : 個々の進度に応じた指導ができていたか。